



B1グループは小林コーポレーションという社名で諏訪をお土産で有名にするというコンセプトで活動してきた。株式会社ピーエムオフィスエーの山口社長からの依頼「萌え観光で地域産業を活性化 諏訪の力を生かしたお土産をプロデュースせよ」を課題に自社の中で食べ物、グッズ、イベントの三つのグループを作り、諏訪の工業技術を連携させて新しい諏訪独自のお土産を企画した。なぜこの三つにしたかという、食べ物とグッズはお土産でよく買われるもので商品化しやすいのではないかと考えたからである。イベントに関しては諏訪をPR すると言った形で商品を企画した。



食べ物の企画として諏訪の名物をお土産として考えたところ塩ようかん、地酒があることが分かった。株式会社ピーエムオフィスエーが提案したキャラクター「諏訪姫」と塩ようかん、地酒のコラボレーションを考え茅野市にある塩ようかんを製造している企業と各酒造所に掛け合ったがうまくいかなかった。その中で諏訪地域の酒造所を探しているうちに上諏訪駅周辺には酒造所が多い事に気づき、試飲会を企画。

しかし試飲会は実際に企画されているので更に新しい企画が必要と考え飲み歩きと観光を兼ねたツアーを企画し、バスなどで観光をしてもらい、上諏訪駅周辺にて酒造所を渡り歩きし飲み歩きするという企画を提案した。

次にグッズの企画として制作費、商品性、大きさ、諏訪姫とのコラボレーションをするといった点考えた結果、キーホルダー、時計、ボールペン、メモ帳という案をだし企画した。キーホルダーは諏訪と関連付けるために諏訪大社のお守りをお土産の企画にしようと思ったのだが、諏訪大社ではキャラクターもののお守りを取り扱ってなく販売するのは難しい結果となった。時計、メモ帳、ボールペンについては調べている段階で諏訪地域には時計の一部分を作っている企業しかなく、長野県以外の企業で委託して商品を諏訪で販売するということはできるが、それでは本来の目的とは違ってしまう諏訪を直接活性化することができない結果となった。

次にお土産をイベントに関連づけての企画は、諏訪のイベントといえば諏訪湖花火大会がある。このイベントで他県から観光客が集まるので諏訪をアピールできると考えた。諏訪湖花火大会は夏に開催し人が沢山集まりとても暑くなる。暑いと欲しくなる物でお土産にもできる物といえばうちわが挙げられる。なのでうちわを配布することを企画しようと思った。諏訪湖花火大会ではうちわをどう扱っているのかを訪ねたところ、配布して欲しいと依頼されたものを配っているとのことだった。なのでうちわさえ作れば配布は可能だということがわかった。うちわを製造している会社の見積もりを参考として考えたところ、一本あたり15円から30円で作れることがわかった。うちわを作って配布することで諏訪姫や諏訪地域を有名にすることが可能となり、ビジネス的な面では酒造所の飲み歩きツアーでの利益を以てうちわで諏訪をPR するという結果となった。

今回の総合演習では社会人基礎力の向上と共にチームワーク力の向上も視野に入れて行動してきた。私たちのグループは、最初は限られた人の発言で協議が進行し全員の意見がうまく取り入れることができなかつたので3つのグループに別れ協議を行うことにした。その結果としてグループでの発言数が増え、それによってコミュニケーションを取ることで情報の共有ができグループがまとまりやすくなった。全体を通しての反省点は企業への働きかけを始めるのが遅かった。企業への連絡がうまくいかず行きづまってしまった。という点が挙げられる。改善策としてブレインストーミングをもっと上手く活用しそれぞれが考えて意見を出し合えばよかったと思う。授業内だけでなく授業時間外でも話し合いの場を増やしコミュニケーションをたくさん取る事が今後の改善策につながりもっと良い結果が出せたのではないかと感じた。